

町中の元病院の建物を改修し、高齢者、障害者、子育て世帯が安心して暮らせる自立支援・共生型コミュニティ拠点の整備を目指す。

- 東日本大震災後、被災である当該地域では住まいの再建が進むが、高齢者、障害者、子育て世帯等が安心して暮らせる住環境づくりが課題と認識。
- 本提案は、地域に密着して展開する介護事業者が中心になり、病院施設を改修し、要介護認定者の重度化予防のためのリハビリの場、医療依存度の高い居住者の住まい、障害者の就労の場、多世代が集える交流の場を整備し、地域を巻き込み運営・開設する。

属性別 地域の課題

	地域課題	原因
高齢者	①在宅介護者の寝たきり度 ・寝たきり度 = 62.5% ・寝たきり度 = 16.8%	リハビリ特化通所介護 4/66施設
	②医療依存度の高い方の 受け入れ民間施設は皆無	看護職員不足 3K→職責離職
障がい者	①情報提供に課題 行政機関窓口: 10%未満	パンフレット等はあるが 「行きづらい...」 「説明がわかりづらい...」 障害に対する認識GAP等
	②就労支援施設数 未達	
子育て世帯	①子供同士や子育て世帯同士の 関わり等の減少	核家族化・少子化が 東日本大震災で加速
	②包括的な相談支援体制がない	

事業概要

代表提案者	愛さんさんビレッジ株式会社
共同提案者	愛さんさん宅食株式会社、宮城県高齢者・障害者住宅相談センターおむすび
事業実施場所	宮城県石巻市
事業実施内容	病院施設の改修(3階建て、有料老人ホーム、通所介護、訪問看護等)、効果的に見守りためのIoTシステムの検証、健康維持増進のための情報モニターの検証等
事業実施期間	令和2年1月～令和5年3月

評価委員会での評価内容

- 町中の利便が良い立地の病院施設を改修した多世代に開かれた住まい・拠点整備の提案は、地元自治体と連携し、事業実効性の観点から評価できる。
- 一方、障害者の就労支援施設や多世代交流拠点等の各機能が、地域に開かれ有効に機能していくためには、仕組みや空間計画に工夫の余地がみられる。地域ニーズのみに即した検討だけでなく、関連制度の動向や事例等を参考にしながら、先導性の高い拠点整備を実施してほしい。
- 重度要介護改善の取組についての様々な研究や知見等、これまでの実績を踏まえた総体的な展開を期待したい。

当拠点施設の機能概念図

